

## 感謝を込めてごみ拾い 葛高野球部が26<sup>キロ</sup>歩く



ごみの多さに驚きながらも、遠くで見つけたごみまで拾い続けた葛巻高校野球部員。「皆さんの役に立ち、少しでも町がきれいになればうれしい」とさわやかな笑顔を見せました。

葛巻高校（伊藤正博校長、生徒157人）の野球部員12人は11月11、12の両日、国道340号の町内全区間約26<sup>キロ</sup>をごみ拾いしながら歩きました。

日ごろ、部活動を支援していただいている町民の皆さんに感謝の意を込め、体力づくりを兼ねて行われたもので、初日は降り続く雨の中、岩泉町境からスタート。車の待避所付近には空き缶などが散乱し、テレビも2台捨てられていました。同校までの約19<sup>キロ</sup>を約7時間かけて歩き、集めたごみは20袋以上。翌日は時折舞う雪の中、同校から九戸村まで歩きました。部員は疲れも見せず、ごみ拾いに精を出していました。

主将の廻立智彦君（2年）は「全員が力を合わせ、頑張りました。野球に対する姿勢も変わり、チームワークもよくなりました」と達成感と自信がみなぎります。

## 歌声合わせて活動発表 コールアローが25周年

結成25周年を迎えた葛巻コールアロー（林義明会長、会員26人）は11月10日、町総合センターでファミリーコンサート開き、日ごろの活動の成果を発表しました。

5部構成で、「童神」など女声合唱6曲、混声合唱3曲を披露。第2部では、ピアノコンクールの全国大会に出場した山形優歌さん（葛巻小3年）や葛巻高校3年の山本里奈さん、田野沙織さんのトランペット演奏を楽しみました。新しいオリジナル曲「くずまき讃歌」の紹介や約140人の観客と一緒に「花」など3曲を歌いました。最後は、会員が大好きな曲「大地讃頌」を声高らかに歌い、アンコールの声が上がりました。



心一つに歌い上げるコールアロー。コーヒーブレイクの時間も設け、来場者に無料で飲み物が提供されました

## 手作りはおいしいね 葛巻中喜びの収穫祭



収穫したサツマイモやカボチャなど4種類の野菜も使って料理に挑戦する中学生

葛巻中学校（中野繁校長、生徒136人）の2年生43人は11月25日、畑を借りて育てた野菜などを使い、収穫祭を催しました。学校の調理室は大にぎわい。収穫した1.6キロ（4升）の大豆を使って、田野ユリ子さん（星野）の指導で豆腐作りが行われ、にがりで固める前の甘い豆乳も味わいました。生徒は4、5人ずつ10班に分かれ、予算2,000円と2時間という枠の中で、それぞれ工夫を凝らして料理作りに挑戦しました。試食を兼ねて1人1票を投じる料理コンテストも開催。自分たちが何度も手を掛け育てた野菜の味は格別と、収穫の喜びを親子で満喫しました。

## 掛け声響く火の用心 消防クラブが夜回り



火災予防を呼び掛ける小田少年消防クラブ

小田少年消防クラブ（久保大樹隊長、隊員15人）は秋の火災予防週間初日の11月9日、約3<sup>キロ</sup>の区間を夜回りし、火災への注意を促しました。

小田の第6分団屯所前から出発。今年は初めて第7分団管内の一部、垂柳から古川戸までの国道も歩きました。地元消防団員が安全を見守る中、児童は拍子木を打ちながら「火の用心！マッチ1本火事の元」と休むことなく呼び掛けていました。

先頭を歩いた隊長の久保君は「火事が起きないようにと願いながら歩きました。みんな大きな声を出せて良かった」と声を枯らして頑張りました。

## 何かあったら助けて！ 葛巻小が110番の家巡り

葛巻小学校（長谷川滋校長、児童219人）の1、2年生66人は11月2日、子ども110番の家を巡る「セーフティラリー」を行いました。

児童はグループに分かれ、茶屋場から堀の内までに31カ所ある子ども110番の家を地図で探し出し、その中から5カ所程度を訪問。「何かあったら助けてください」と元気にあいさつし、訪問先で確認用のシールを張ってもらいました。

この取り組みは岩手署葛巻駐在所（島山和夫所長）が企画したもので、国道沿いなどに老人クラブやPTAなど20人以上が立ち、児童の安全を見守りました。



訪問先の子ども110番の家から確認シールを張ってもらう児童

## 自然に学ぶ健康づくり 東城百合子さんが講演



「マイナス部分をプラスに変えていくのが人生。自分の心をどう磨いていくかが大切」と話す東城百合子さん

町出身の自然食・自然療法研究家、東城百合子さんの講演会（葛巻からたちの会主催）は11月18日、町総合センターで開かれ、約70人が食生活の大切さを学びました。

東城さんは大正14年生まれ81歳。玄米を主とした菜食と自然療法で自らの病気を克服した経験から、命の尊さや自然に添った生き方を提唱しています。

「食卓は命の元。体質は毎日の積み重ねで自分自身がつくってきています。昔から伝えられてきているものを次の世代にも伝え、自然が培った食べ物の中にある命に目を向けてほしい」と呼び掛けました。